

2012年12月4日

株式会社オプト

大阪大学産業科学研究所とオプト、 アクセスログの構造化に関する産学共同研究を開始

～アクセスログから消費者行動の可視化を目指す～

株式会社オプト（東京都千代田区、代表取締役社長 CEO 鉢嶺登、証券コード 2389）は、国立大学法人大阪大学（大阪府吹田市、総長 平野俊夫、以下「大阪大学」）産業科学研究所（所長：八木康史教授）古崎晃司准教授らの研究グループとの共同研究により、インターネットユーザーのアクセスログ（以下「アクセスログ」）から、オントロジー工学（注1）を用いた意味付けを行い、URL の内容及びユーザーの行動を判別できる仕組みの構築を目指します。

様々な URL について共通の意味付けを行うことによって、これまで十分に活用されてこなかったアクセスログの羅列を、誰でも容易に分類・分析することが可能になります。

アクセスログは、ネット上での消費者の行動を表す指標として、Web サイトを保有する企業・個人をはじめとして、様々な場所で収集・取得されており、いわゆるビッグデータの代表例として、多くの事業者で活用が試みられております。しかしながら、秒単位で収集されるアクセスログは、理解不能な文字データであることから、分析には高度なノウハウが要求され、大部分のデータが活用できていない状態にあります。一般的には URL の内容を把握する手法として、テキストマイニング（注2）が主流となっておりますが、この方法では分析対象サイトの深い意味的関係を適切に捉えることが困難であり、ユーザーの「行動」そのものを定量的に把握するには限界があるものと考えられています。

本共同研究の成果を活用すれば、複雑かつ多様な情報を系統立った形で整理することができ、アクセスログに含まれる非構造情報（注3）である URL を構造化することが可能となります。これにより、一人ひとりのインターネットユーザーのサイバー空間における行動履歴からユーザー全体の行動特性を見ることが可能となります。また、これとは反対に、行動特性の違いに応じたマーケティング戦略の立案を行うなど、企業や事業体の経営戦略の極めて有力な検討材料として活用できるようになることが期待されます。

また当社ではこれまで、独自のURL解析技術を開発し、インターネットユーザーが閲覧した内容の具体的な仕様を統計的に分析するサービスを提供しております。これを本共同研究の成



PRESS RELEASE

果と融合することにより、インターネットユーザーが商品を選択するきっかけや動機の解明、商品選択後の行動等について、その意味的な観点を踏まえた、より詳細かつ定量的な行動分析が可能となります。そして、これまで活用がされていなかったアクセスログを有効に活用できる形に変換するサービスの提供（※）を目指す予定です。

※本サービスの提供においては、個人識別性を獲得し得ない匿名化された情報を統計処理したものを使用します

当社は、2012年11月に大阪大学と共同研究契約を締結しています。今回の技術開発は本契約による研究開発の第一歩であり、今後とも大阪大学との共同研究を一層推進してまいります。

（注 1）オントロジー工学：計算機（コンピューター）にデータの意味を理解させ、知識として処理させるための情報工学の分野。

（注 2）テキストマイニング：テキストを対象としたデータマイニングのこと。通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度・相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出すテキストデータの分析方法。

（注 3）非構造情報：データ構造の定義がなされておらず、リレーショナルモデルに上手く適合しない情報を指す。文書や画像、音声、動画といった Web サイトのコンテンツは非構造情報に該当する。

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社オプト ファミリー経営企画本部 広報担当 大野

TEL : 03-5745-3624

e-mail:t.oono@opt.ne.jp

【サービスに関するお問い合わせ先】

株式会社オプト お問い合わせ窓口 : info_c-finder@ml.opt.ne.jp